

中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会  
教員養成のフラッグシップ大学検討ワーキンググループ（第3回）の主な意見

**（教員養成フラッグシップ大学の教育課程と教育研究について）**

- 教職大学院制度について、実習の在り方を含めた教育内容について検討する時期にきているのではないか。
- 教職大学院制度を柔軟化することによる、教職大学院の修士課程への逆戻りも懸念される。例えば、総単位数等はずえ、管理職候補者等の個々の学生の特性に於じて、ある一定の単位については修得したと「みなす」ことも考えられるのではないか。
- 思い切った教育のためには、教育課程と教職課程認定との関係を柔軟に検討できる余地が必要ではないか。
- フラッグシップ大学には、政策課題と教育の在り方自体の関係を実践的に研究するという機能も期待されるのではないか。
- フラッグシップ大学には、様々なステークホルダーがカリキュラムの内容に關与することができるような運営体制が必要なのではないか。
- フラッグシップ大学の実習の在り方として、民間企業等の協力を得てデザインされた実習を行うことも考えられるのではないか。
- フラッグシップ大学で学んだことを生かすことができるような実験校をどのように作っていくかということの議論も必要ではないか。

**（教員養成フラッグシップ大学の大学教員の養成・採用・研修について）**

- 実務家教員には、過去の経験や教員自身の勘で指導するのではなく、教育の流れを踏まえ、エビデンスに基づいた指導がなされるべきではないか。
- 実務家教員には、プロジェクトベースの学びをコーディネートできるような役割が求められるのではないか。
- フラッグシップ大学の教員にも資格や基準といったものが必要（実務家教員であれば学術研究との融合ができていること、研究者教員であれば現場での教育実践との融合ができていることなど）。しかし、そういった教員は非常に少ないため、クロスアポイントメントの活用や複数大学との連合といった在り方を検討すべき。
- FD活動や研究活動の在り方を通して、複眼性のある教員や、そのような教員とタグを組んでやることが出来る体制づくりが必要ではないか。
- 大学の教員採用については、今必要な人材を採用するのではなく、これか

ら先のことを見越した上で、どのような教員を採用するのか考えなければならない。

- 研究開発をすることができる優秀な人材を教員養成の世界に引き込んでこなければならない。そのためには待遇やキャリアといったことを明確にする必要があるのではないか。
- 研究者教員と実務家教員が互いに歩み寄る必要がある。研究者教員にも附属学校ではなく地域等の現場を実質的に知る研修が必要である。実務家教員にも理論を使うことで教育実践の質が高まるのだと実感できる研修が必要。
- Society5.0 時代の予測の付かない社会を前提としたフラッグシップ大学においては、実務家教員は必ずしも学校現場の実務家に限るものではなく、プログラミングの研究をしてきた者など、これまでと異なる定義の実務家教員も考えられるのではないか。その際、クロスアポイントメントの積極的な導入も検討されるべき。
- 大学教員には、理論と実践を架橋し融合したことがある経験が重要。
- 多様な教員のチームとする場合、チーム力をどのように作り上げるかが重要。
- 論理的思考力と規範的判断力を身につけることができるようなリベラルアーツ教育をすることができるような大学教員を育てていくことが必要。
- 日本においても Ed.D.が検討されるべきであるが、実践経験を十分に積ませて、その中から自ら理論化を図り、自らの実践能力を高める、ということが、現在の人材では難しいため、外から優秀な人材を導入することや大学間の集約を図るなど、その方法や仕組みについての議論をしっかりとする必要がある。

### (その他)

- フラッグシップ大学の附属学校園の在り方についても検討が必要ではないか。
- 免許制度の特例を認めるのではなく、フラッグシップ大学には、教育方法や教育環境について先行した事例に取組み、それを広く他の大学へ波及することが必要なのではないか。
- フラッグシップ大学は、安全で信頼性の高い日本型の教育ビッグデータの管理運営システムを早期に研究開発できるような、「教育を科学する」ことをリードする大学であるべきではないか。
- フラッグシップ大学は、PBL や STEAM 教育といったことが日常的に学ぶことができる環境が整備されている必要があるのではないか。
- フラッグシップ大学では、活用される正確なエビデンスを作ること、また

そのエビデンスを使いやすいような形にしていくことが求められるのではないか。

- 教室の中だけではなく、地域全体で **Society5.0** に対応できるような人材育成をどうしていくか考えていく必要がある中で、地域と議論することができる人間関係の構築力を身につけた教員を養成していくことが重要ではないか。
- フラッグシップ大学は研究開発から現場への実装までを行う大学なのではないか。
- フラッグシップ大学のうち一つは必ず、全ての研究開発等の取り組みを統括する大学とすべき。
- フラッグシップ大学には一定のインセンティブのもと、与えられた特定の課題やミッションについて成果を出すことが期待されることを考えれば、その課題や成果によって、フラッグシップ大学も一様ではないのではないか。
- フラッグシップ大学の評価を誰がどのようにやるのかということのある程度決めておくことが必要ではないか。
- 高校と大学の連携や大学入試の在り方など、学部段階の入り口を変えることで高い志を持った学生を入学させる必要があるのではないか。
- カリキュラムがころころと変わるようでは、学生にとっても非常に不利益となる。フラッグシップ大学は、ある程度長いスパンで取り組んでいくことが必要なのではないか。
- フラッグシップ大学の博士課程においては、学校現場の経験がある教員が研究等を通して学び直した後に教員として戻ったときに、そこで身につけた能力や研究結果が、どのように現場で生かされ、成果が出ているのかということを可視化できるようなものが作られる必要があるのではないか。